

整理番号	トアレS 1L×6/CS	作成日	2009年11月2日
3784-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2019年5月24日

Ver.4.0

安全データシート (SDS)

1 製品及び会社情報

製品名	トアレS 1L×6/CS
製品コード	3784
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町1-1
担当部門	化成品開発グループ
担当者	平沢 肇
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	トイレの尿石スケール除去剤及び洗浄【業務用】
作成日	2009年11月2日
改正日	2019年5月24日
整理番号	3784-04

2 危険有害性の要約

GHS分類

金属腐食性物質	区分 1
皮膚腐食性／刺激性	区分 1 (1A及び1B)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分 1
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分 1
吸引性呼吸器有害性	区分 1
水生環境有害性 (急性)	区分 1

※記載のないものは分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル

腐食性
環境
健康有害性



注意喚起語

危険

危険有害性情報

金属腐食のおそれ
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
臓器(呼吸器)の障害
長期にわたる、または反復暴露による臓器(歯、呼吸器系)の障害
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

- ・ 吸入・飲用不可 人体に害があるので飲まないこと。
- ・ 吸入すると、人体に害があるので換気の良い所で使用すること。
- ・ ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取扱後は、手をよく洗うこと。

整理番号	トアレS 1L×6/CS	作成日	2009年11月2日
3784-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2019年5月24日

Ver.4.0

- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・必要以上の環境への放出を避けること。
- ・必要に応じて保護具を着用すること（手袋・眼鏡・面・保護衣等）。

【応急処置】

- ・万一飲み込んだ場合、口をすすいでください。吐かせずに、直ちに医師の診断を受けること。意識のない場合、何も与えないこと。
 - ・誤って皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗ってください。
 - ・吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。
 - ・誤って眼に入った場合、水で15分間注意深く洗ってください。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けてください。
- ※異常のある場合は、医師の診断を受けてください。

【保管・貯蔵】

- ・換気の良い涼しい場所で容器を密栓して保管してください。
- ・子供の手の届かない場所に施錠して保管してください。
- ・日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。

【廃棄】

- ・廃棄する際は、中身を使いきってから、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託してください。

3 組成、成分情報

- 化学物質 ・混合物の区別
・混合物

成分名 化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化学式	化審法※ ¹	PRTR法No.※ ²	毒劇物 該非※ ³	安衛法※ ⁴
塩化水素	9.5	7647-01-0	／	(1)-215	非該当	非該当 (規定量以下)	表示・通知 対象物質98
防錆剤	0.1～1.0	非公開	／	非公開	非該当	非該当	非該当
有機酸	2～8	非公開	／	非公開	非該当	非該当	非該当
非イオン系 界面活性剤	0.1～1.0	非公開	／	非公開	非該当	非該当	非該当
キレート剤	2～8	非公開	／	非公開	非該当	非該当	非該当

— : 特定できない、規定されていない、及び有用なデータが無い事を表します。

※¹ 化審法 官報公示整理番号(化審法)

※² PRTR法報告物質 (2009.10.1.改正対応) に関する項目

※³ 毒物及び劇物取締法 に関する項目

※⁴ 労働安全衛生法 に関する項目

表示・通知義務対象物質 : 労働安全衛生法の一部を改正する法律(平成26年法律第82号)

名称等を表示、通知すべき有害物質

第2種有機溶剤・第3種有機溶剤 : 施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則

法令の概要 (詳細は 15.適用法令参照)

PRTR

非該当 (含有なし)

毒物及び劇物取締法

非該当 (規定量以下)

労働安全衛生法

有機溶剤中毒予防規則

非該当 (含有なし)

特定化学物質 第3類物質

塩化水素

整理番号	トアレS 1L×6/CS	作成日	2009年11月2日
3784-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2019年5月24日

Ver.4.0

消防法

(消防法上の非危険物) 不燃物である

4 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・眠気やめまいの症状が出た場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい状態で休息させる。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。
- ・皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること
- ・気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。
- ・水で洗浄したのちに衣類が皮膚に張りついている場合は、無理にはがしてはならない。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受ける事。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。
- ・医師の指示なしでは油類または軟膏を用いてはならない。
- ・すぐには痛みがなく視力に影響がなくても障害が遅れて現れることがあるので、必ず医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・揮発性液体なので、吐き出させるとかえって肺への吸引等の危険が増す。
- ・腐食性の製品なので、吐き出させるとかえって危険が増す。可能であれば希釈のために水を飲ませる。意識の無い場合は何も与えないこと。直ちに医療措置を受ける手配をする。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。
- ・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・医師に製品ラベルもしくは、SDSをみせる事。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5 火災時の措置

消火剤

- ・初期火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
- ・大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。
- ・この製品自体は、燃焼しない。

整理番号	トアレS 1L×6/CS	作成日	2009年11月2日
3784-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2019年5月24日

Ver.4.0

使ってはならない消火剤

- ・特になし

火災時の特有の危険有害性

- ・当該製品は分子中にハロゲン含有しているため火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)を放出する。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにす
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・本製品は強酸なので、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理するか、または徐々に注水してある程度希釈した後、必要があれば消石灰、ソーダ灰等で中和する。下水溝、表流水、地下水に流してはいけない。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7 取扱い上の注意

取扱い

技術的対策

- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・酸性なので、アルカリ性の製品との接触を避ける。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・他の容器に移し替えしないこと。
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。

整理番号	トアレS 1L×6/CS	作成日	2009年11月2日
3784-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2019年5月24日

Ver.4.0

保管

適切な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管する事。
- ・容器を密栓する事
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・耐腐食性あるいは耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
- ・施錠して保管すること。
- ・湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと
- ・アルカリと一緒に保管してはならない。

安全な容器包装材料

- ・軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ステンレスまたはポリエチレン容器に保管する。

8 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。

成分名	管理濃度	許容濃度 (日本産業衛生学会)	許容濃度 (ACGIH)
塩化水素	—	5ppm (7.5mg/m ³) (2006)	STEL C 2ppm (2007)
防錆剤	—	—	—
有機酸	—	—	—
非イオン系界面活性剤	—	—	—
キレート剤	—	—	—

記載の無いものは、知見なし、あるいはデータなし

保護具

呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用すること。
- ・必要に応じて保護衣、保護前掛け等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用すること。

9 物理的及び化学的性質

外観	: 無色透明～淡黄色透明液体
臭い	: 刺激臭
pH	: 1.0以下
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: なし
自然発火温度(発火点)	: データなし
燃焼性	: データなし
燃焼または爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし

整理番号	トアレS 1L×6/CS	作成日	2009年11月2日
3784-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2019年5月24日

Ver.4.0

比重	: 1.08
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
その他のデータ	: データなし

10 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・特になし

避けるべき条件

- ・高温への暴露、高酸化剤、アルカリ金属、金属粉末との接触

混触危険性物質

- ・アルカリ性物質（酸性物質のため、アルカリ性物質との接触を避ける事。）

危険有害な分解生成物

- ・特になし

その他

- ・特になし

11 有害性情報

成分名 化学名	急性毒性 (経口)	急性毒性 (経皮)	急性毒性 (吸入：ガス)	急性毒性 (吸入：蒸気)	急性毒性 (吸入 ：粉塵、ミス ト)	皮膚腐食性/刺 激性	眼に対する重篤 な損傷性/眼刺 激性
塩化水素	区分5	区分外	分類対象外	分類できない	区分4	区分1A	区分1
防錆剤	区分4	区分5	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
有機酸	区分5	分類対象外	分類対象外	分類対象外	分類できない	区分3	区分2A
非イオン系 界面活性剤	区分外	区分外	分類対象外	区分外	区分外	分類できない	分類できない
キレート剤	区分4	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	区分1	区分1

成分名 化学名	呼吸器感受性 / 皮膚感受性	生殖細胞変異原 性	発がん性	生殖毒性	標的臓器/全身 毒性 (単回暴 露)	標的臓器/全身 毒性 (反復暴 露)	吸引性呼吸器有 害性
塩化水素	— / —	分類できない	区分外	分類できない	区分1 臓器(呼吸 器系)の障害	区分1 (呼吸器系、 菌)	区分1
防錆剤	— / —	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
有機酸	— / —	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
非イオン系 界面活性剤	— / —	区分外	分類できない	区分外	分類できない	分類できない	分類できない
キレート剤	— / —	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

— : 区分外 / 分類できない / データがない

整理番号	トアレS 1L×6/CS	作成日	2009年11月2日
3784-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2019年5月24日

Ver.4.0

12 環境影響情報

成分名 化学名	水生環境有害性 (急性)	水生環境有害性 (慢性)
塩化水素	区分1	区分外
防錆剤	分類できない	分類できない
有機酸	区分外	区分外
非イオン系 界面活性剤	分類できない	分類できない
キレート剤	分類できない	分類できない

— : 区分外 / 分類できない / データがない

オゾン層への有害性 : データなし

13 廃棄上の注意

- ・廃棄する際は、中身を使いきってから、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

14 輸送上の注意

国際規制

国連分類

腐食性物質

クラス 8

包装等級

II

国連番号

塩酸

1789

海洋汚染物質

データなし

国内規制

容器イエローラベル

毒性物質及び/又は腐食物質（不燃性/水反応性）

157

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・荷くずれ防止を確実に行う。
- ・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・直射日光を避ける。
- ・水漏れ厳禁。
- ・横積み厳禁。
- ・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15 適用法令

火薬類取締法

対象外

高圧ガス保安法

対象外

整理番号	トアレS 1L×6/CS	作成日	2009年11月2日
3784-04	横浜油脂工業株式会社	改定日	2019年5月24日

Ver.4.0

消防法 () 内は、指定数量

内容量 6L (消防法上の非危険物) 6L

(消防法上の非危険物)

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)

詳細は 3. 組成、成分情報参照

非該当 : 規定量以下のため非該当。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法

表示対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)

非該当 : 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

特定化学物質 第3類物質

塩化水素

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法 (PRTR法)

非該当 (詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

16 その他の情報

参考文献

JIS Z 7253 : 2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS)

GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

15107の化学製品 (化学工業日報社)

JACA (日本オートケミカル工業会) 編集: 化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 (日本オートケミカル工業会)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)

産業中毒便覧 (医歯薬出版株式会社)

化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂7版

事業者向けGHS分類ガイダンス第2版(平成23年3月) 経済産業省

※注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

GHSプログラムver. 1_1